

# 香友会各部の活動

## (1) 香友会各部の活動

香友会の組織には総務部・会員組織部・広報部・研修部・支部支援部・財務部の6つの部が設置され、香友会幹事が各部に所属して会の運営を担っています。70周年以降の平成25年度には支部支援部が新設され、支部活動の活性化に取り組んでいます。

香友会活動全般の活動方針案の策定など、運営を統括する総務部を除いた各部のこの10年の取り組みを紹介します。

### 会員組織部

#### この10年の取り組み

古川知子 学部昭和48年卒業

卒業後は食品メーカーに勤務、退職後子育て、転勤生活を  
経て、平成11年より女子栄養大学生涯学習講師として、講演・  
料理教室講師など。令和3年3月まで、香友会埼玉支部長  
を15年間務める。香友会幹事長、会員組織部長

会員組織部の活動内容は、

＊職域別・専攻別卒業生の会との連携、支援活動

＊香川栄養学園在学・在校生（学生会員）を対象とした支援活動の企画・運営 などです。

具体的活動は次のようなものです。

■職域別・専攻別卒業生の会との連携、支援活動

あさば会（養護教諭）、若葉会（臨床検査技師）、家庭科教員の会については、それぞれ総会開催案内の発送費と研修会講師料の補助、食文化栄養学科卒業生の会へは食文化実習発表会の案内の発送費補助をおこ

なっています。

数年前から、実践栄養学科と短期大学の支援が検討され、実践栄養学科については、卒業生が多いことから、中々難しいのですが、栄養教諭制度から10年ということで見親会が開催され、会費を補助しました。短期大学部については、平成21年に廃止された香川栄養学園栄養士科を含め、駒込キャンパスで栄養学を学んだ卒業生の会として「駒込キャンパス栄養士の会」を立ち上げ、駒込祭において卒業生の情報交換やお茶会、研修会（食育講座）などをおこなっています。入会希望の方は、香

友会までご連絡ください。

香川調理製菓専門学校については、平成24年7月18日に香友会主催で、卒業生の会「香流会キックオフパーティー」を開催後、毎年「香流会」を開催し、懇親会・発送費を補助（現在は、総会のみ）しています。

■香川栄養学園在学・在校生（学生会員）支援講座

・専門学校在校生対象の研修・講演会の講師料助成

・学部生新年度の料理教室「一人暮らしエンジョイライフ」

初めは、IHコンロを使ったことがない寮生対象に開催していましたが、最近IHコンロも普及していることから、全1年生対象に広報をおこなっています。現在はこのコロナ禍で実施できないため、昨年5月連休明けに自宅に戻れず寮に残っている11名の学生に、事務局に協力いただきお弁当をプレゼント。今年度は、入寮式の時に「エンジョイライフ」のレシピ冊子とハーブソルト（調味料）を50名の学生に配布しました。また、長野県人会の1年生より、時短でできるレシピを紹介してほしいとのことで、このレシピを県人会ホームページで紹介したところ、「レ

シピ通り作ったら、美味しい料理ができた」とうれしいお便りもいただきました。

・学部・短期大学部卒業前の「食物アレルギー講座」

短期大学部就職課から、保育園に就職する学生のために食物アレルギー講座をという要望があり平成23年度より開講しています。学部生の駒込への参加もあつたので、それぞれに開講することになりました。令和2年度、学部は中止しましたが、短期大学部は松田早苗先生にご協力いただき、学生に資料を先に送り、オンラインでの開講となりました。例年は、保育園に勤めている卒業生を講師に招き、実習もあつたので残念でした。



短期大学部生向けアレルギー講座の様子（平成28年度）

・香川栄養学園在学・在校生（学生会員）卒業記念品贈呈

平成28年度より、全卒業生に袱紗を贈呈しています。ただし、専門学校は2年制のコースもあることから、印鑑と交互に贈呈しています。

今年度も、昨年からのコロナ禍で、中々対面で実施できていたものがありません。

改めて10年を振り返ってみると、卒業後、香友会との距離が離れてしまっている卒業生が多いのに気づかれました。在学・在校生支援の活

動が、卒業後の香友会活動の参加に繋がってくればと願いながら、また在学・在校生と卒業生が共有できるような場づくりもオンラインなら

可能なかと会員組織部17名のお知恵を借りながら、「できること」を検討していきたいと思えます。

卒業生の皆様にお願いです。ご自身の活動をユーチューブなどで配信されている方は、是非ご紹介ください。情報交換の場の一つとして今後活用させていただきたいと思っております。よろしくお願いたします。

## 広報部 香友会組織の中の広報部の役割

山崎孝子 学部昭和53年卒業

広告代理店媒体企画部にて料理番組や料理パンフレット等を作成。その後、大学歯学部附属病院主任栄養士を経て、現在、千葉市保健福祉センターの嘱託管理栄養士として勤務。香友会広報部長

香友会では皆様に香友会を理解していただくために最新の活動状況や活動予定、卒業生の近況、全国各支部の活動の様子などを印刷媒体やホームページでお知らせしています。それを担当しているのが広報部です。

### ■「香友会」の活動情報を発信

香友会の主な印刷媒体は会報紙『香友会通信』で、毎年1回6月に発行しています。全会員へ送付し、

学生会員および学園教職員に配付しています。1ページ目には、毎年6

月に坂戸キャンパスで開催されるホームカミングデー、香友会定例会員総会のご案内を掲載し、多くの会員の皆様にお越しいただけるよう呼びかけています。その他、香友会支部日より、「卒業生の会」からのお知らせ、各種講座のご案内、学園からのお知らせなどの記事を掲載し、充実した紙面作りを心がけています。



香友会の会報紙「香友会通信」と学園誌「香窓」香友会のページ

また学園誌『香窓』（年2回2月・8月発行）では、「香友会のページ」の編集をおこなっています。学園誌の読者は会員だけでなく、保護者をはじめとする多くの皆様なので、より深く香友会をご理解いただける内容となるよう配慮しています。

広報部では香友会行事や主催講座・講習会の取材活動（写真撮影、原稿執筆）を広報部幹事が年間を通して分担しておこない、印刷媒体やホームページに記事を掲載しています。主催講座の「専門家講座」や「元気はつらつ市民講座」は、どちらも年4〜5回程度開催されます。これらの講座にはその都度担当者が会場へ行き、取材・写真撮影をおこないます。その後、講座の概要や受講者の様子、所感をまとめ、写真と合わせて香友会事務局に送ります。

### ■香友会ホームページ

香友会ホームページには「香友会

主催講座・講習会」のページがあり、そのレポートを広報部が担当しています。ホームページは、広報部が最も活躍する場になっています。

ホームページは、幸村邦子前広報部長（短大昭和55年卒）を中心に、平成28年度よりリニューアルの計画を進め、再考を重ねて、平成30年7月30日より新サイトへ切り替え、稼働を開始しました。

新サイトでは、全体のデザインに統一感を出し、トップ画面から各メニューがより便利にご覧いただけるようになりました。

また各ページにも利用しやすい工夫を凝らしました。

①「主催講座・講習会申し込み」、「住所・氏名等変更届」、「胚芽精米のご注文」は専用のフォームから送信できるようにしました。

②「香友会支部活動」に支部ごとのページを設置し、各支部の情報に直接アクセスできるようにしました。

③「香友会会員の広場」は会員の皆様のニュース、同窓会やイベントなどの開催のご案内・報告、学生会員へのインフォメーション、卒業生の会からのお知らせ、会員のお店紹介など、幅広く活用できるページになりました。

このリニューアルにより、多くの方からこのフォームを利用して講座

のお申し込みをいただいています。また、「各種変更届けがしやすくなった」とのご意見をいただいたり、「胚芽精米の注文がしやすくなった」と注文件数の増加がみられたりと、リニューアルの効果が実感しています。パソコンだけでなく、スマートフォンやタブレットなどからの閲覧もより快適になりました。

ホームページは随時更新しています。使いやすい親しみやすくなった新ホームページにぜひアクセスしてみてくださいと思います。ただ、この2年間のコロナ禍の中では思うような活動ができておらず、試行錯誤が続いています。

広報部では各媒体を有効に活用し、多くの皆様に香友会をご理解いただき、またたくさんの方が生まれることを願い、幹事一同これからも検討を重ねて参りたいと考えています。

## 研修部 研修部の歩み

### 新出真理

短大昭和60年、学部昭和62年卒業、大学院博士令和2年修了

(財)日本健康文化振興会、健保組合を経て他学大学院修士課程修了後開業。栄養教育やコンサルティング、大学での教育に従事。(二社)日本栄養検定協会顧問、栄養科学研究所客員研究員、ヘルスサポート研究会カナン代表、香友会研修部長

研修部では、「専門家講座」、「元気はつらつ市民講座」、「管理栄養士国家試験受験準備講習会《直前講座》」を開催しています。この10年の主なテーマをご紹介します。

「専門家講座」は、生涯学習に役立つテーマを設定して年4〜5回、駒込校舎で開催しています。

栄養の基礎的資料のテーマでは、「日本人の食事摂取基準」の2015年版と2020年版について

成25年、「肺の生活習慣病(COPD)の栄養療法と運動療法」が平成26年、「がん、摂食・嚥下機能低下、低栄養」の栄養食事指導」が平成28年、「動脈硬化性疾患予防ガイドライン2017年版」が平成30年に開催されました。また単独講師では「口腔ケアと栄養ケア」が平成26年、「ロコモティブシンドローム」が平成27年、「授乳・離乳の支援ガイド」「高齢者の診療ガイドラインを巡って」

栄養食事マネジメント」が令和元年に開催され、進歩する医学・栄養学について学ぶことができました。

学校保健関係のテーマでは、「学校給食実施基準の一部改正について」が平成30年、公衆栄養関係のテーマでは「健康日本21(二次)」が平成25年、「第3次食育推進基本計画と食生活指針の改定」が平成28年、「スマートミール」が平成30年に開催され、制度に関わった香友会員で女子栄養大学の教員でもある講師から聞くことができたことは、受講者に深い満足感を与えたようでした。

食品関係のテーマでは、私たちの多くが学んだことのない「福島原発事故による放射能汚染対策のその後、とくに土壌の除染と食品の検査について」が平成24年に開催され、その後も「食品表示」については平成25年と平成28年、「食品開発の最

新情報」が平成29年に開催され、重要なテーマについて、受講者は真剣に学びました。

他ではみられないテーマとしては、実習も含む人気シリーズ「プロカメラマンが教える料理写真の撮影テクニック」が平成24年〜平成27年まで8回開催された他、「カウンセリング」「マーケティング・ネーミング」平成27年、「スピリチュアルケア」平成28年、「時間栄養学」「食と健康情報のリテラシー」平成29年、「ムスリ

元気はつらつ市民講座「秋の彩を和菓子で作ってみよう！」(令和元年)



専門家講座「日本人の食事摂取基準(2020年版)」について(令和元年)



元気はつらつ市民講座「秋の彩を和菓子で作ってみよう！」(令和元年)

ム」平成31年、「SDGs」令和2年等が開催され、いずれも好評でした。「元気はつらつ市民講座」は、地域貢献を目的に、香友会館で年4〜5回、開催しています。学園関係者を講師に迎え、試食等を行うテーマが多いことが特徴です。

四群点数法や調理の基本、油脂、葉酸、アレルギーや介護対応食や災害の備え、健診結果に応じた食事を学ぶテーマの他、フレンチ懐石や菓膳、発酵食品や加賀・沖繩・ベトナム・韓国・インド北欧等の料理の回も人気でした。肉まんやアイシングクッキー、和洋菓子作り、年末年始のテーマブルコデーネットを体験等、三食の内容以外でも「食」を楽しむようなテーマにも取り組み、地域の方に

貢献をしました。

「管理栄養士国家試験受験準備講習会《直前講座》」は、文字通り受験直前の1〜2月に、東京・駒込校舎で開催しています。令和2年からは、出題基準が変更になったため、管理栄養士国家試験合格率の高い女子栄養大学の現職教員を講師に、応用力問題を含めて全10科目に対応しています。密度が高く、試験に直結した内容は、毎年好評です。

今後も研修部では、会員の皆様のニーズに応えられるよう努めて参ります。

お名前を挙げられませんでした。が、講師の先生方と開催に当たってご尽力いただきました研修部員、事務局の皆様へ感謝申し上げます。

## 支部支援部

### 支部支援部の歩み

#### 成瀬克子

学部昭和41年卒業

大学の二回生として卒業後、大学・短期大学で栄養生化学・生化学・栄養学分野で教育、研究に携わり平成25年に退職。香友会では、会員組織部、支部支援部で活動。神奈川県支部長として10年支部を運営。世代交代というときにコロナ禍となり顔を合わせての支部会ができず一期（2年）その椅子に居座っています。前香友会副会長、元香友会支部支援部長

#### 権平康子

短大昭和36年、専攻科37年卒業

太平洋側の東京で生まれ育った者が、結婚を機に日本海側の雪国新潟の生活の中で、その気候風土、自然環境の異なる二面性を共有媒介出来たことが人生の財産となっている。元香友会副会長、元香友会支部支援部長

香友会創設70周年から今日に至るまでの10年間で、香友会における大

きな変化は、運営に当たる部組織に支部支援部が新設されたこと、そし

て支部活動の活発化の支援に取り組んできたことです。

#### ■支部支援部の設立

全国都道府県には支部が設置されています。それまで各支部の活動は、会員数の多い支部が中心となっていました。そして年に1回開催される全国支部長会では、各支部間で活動の近況報告や情報交換をしていました。この時点での支部の支援は会員組織部が担当していました。

平成20年頃より全都道府県への支部設置の動きが始まり、平成27年に福井支部が設立し、全国47都道府県すべてに支部が設立されました。

当時の吉田企世子香友会会長の「香友会活動の活性化には、支部活動の活性化が必須」との命により「支部支援部」を新設、香友会規約に「支部支援部」を入れた改正案を幹事会に提示、平成25年総会にて承認されました。

具体的な活動としては、支部活性化のための提案、支部支援部の担当幹事と支部代表者で連携を取り支部運営を補佐、また総務部と共同して全国支部長会の企画運営等が挙げられました。

初代部長に権平康子香友会副会長（新潟支部）、副部長に小林芳子幹事（千葉支部）、成瀬克子幹事（神奈川県支部）を含む幹事8名で活動を開始

しました。

#### ■支部支援に関する細則

支部活動活性化に伴い、支援のための予算額の検討、規定の明文化が必要になりました。支部活動に対する支援策として、講師料、講師交通費の助成、年会費の還付、活動助成金の支払い等の具体的な支援策を「支部支援に関する細則」として平成25年に制定しました。その後、支援を支部活動とブロック活動（後述）に分け、ブロック活動では諸経費の助成等を追加、数回の改正を経て現在に至っています。

#### ■ブロック活動

支部により支部会に出席する会員数にかなりの差があり、活動状況の温度差が大きく各支部の意図する活動につながる苦勞が何えましました。

一支部では支部の活性化を図れないのであれば、近隣の複数支部でブロックを作り、ブロック活動で支部



支部長会でのグループ討議の様子（平成30年度）

間の親睦づくり、ブロック研修会へと活動の活性化を図れるようにしました。

グループ分けについては、先に支部に実施したアンケート調査の結果を参考にし、修正・検討を重ねて10ブロック+海外卒業生の会という現在の形になりました。

ブロック活動に対する支援は、「支部支援に関する細則」によりおこなわれています。

## ■意見交換会から全国支部長会のテーマ別討議へ

先に実施した「支部活動に関するアンケート」から集約された意見を中心に、より具体的な支部活動の問題を把握する目的をもって、年に3〜4ブロックでの意見交換会を実施しました。まずは東北・中国・九州ブロックで、更に北信越・中部・四国ブロックで実施しました。

意見交換会で見えてきた問題点、課題は、支部会への参加者が少数で固定化していること、若い会員が少なく高齢化していること、多岐にわたる専門性の中での研修テーマを決めかねていること、などでした。

これらの問題点を、全国支部長会で発表し、テーマとして各支部の対応をブロックごとにグループ討議でおこないました。支部による温度差、地域性があり、結論として明確

な解決策は出にくい課題ですが、各支部とも努力している様子が伺えます。

平成30年、令和元年の全国支部長会では、これらの問題点及びその解決法、更に未来に向けての新たな方法の検討を、ブロックの壁を外して討議しました。ブロックの壁を外してのグループ討議では、日頃交流のない他ブロックの支部との話し合いができて有意義であった、との声が多数聞かれました。

これらの討議を通して聞かれた意見を、支部活動にどのように生かして活性化していくか、支部活動に良い方向性を探ることができればと思います。

吉田企世子会長、山下静江会長は常に「香友会の発展は、支部活動から始まる。」と主張されていました。支部間は会員数・構成員によって温度差がありますが、「建学」の理念を皆共有しています。これに基づいて、参加して楽しい会、共通する話題を持てる会としての香友会活動を無理せず継続していくことが重要です。

支部支援部の役割は、支部活動を円滑に発展的に進める上での支援であります。香友会がますます発展できますよう支部活動を応援していきます。

## 財務部

### 財務部の取り組み状況

令和3年度より香友会年会費の口座自動引き落とし開始

岡野治恵 短大昭和45年卒業

東京都衛生局（保健所）に8年間、ボツシユ健康保険組合 栄養相談室に31年間勤務。現在はフリーの立場で自治体を中心に特定保健指導などを担当。香友会財務部長、香友会 埼玉支部長

財務部の役割は香友会の運営に必要なお金についての計画を立て資金を集め、管理することにあります。

これまで年会費（3千円）の納入は、郵便局払込取扱票、銀行振込、香友会事務局に持参する方法などでお願していました。令和2年度より口座自動引き落としを始めました。令和2年度の香友会通信に、その旨をお知らせするチラシを同封したところ、1000余名のお申込みをいただきました。

こうして納められた年会費は、生涯学習に繋がる各種講座・講習会の企画運営、会員の動向把握と名簿の管理、会員への広報などの香友会活動に使われています。

また、一部は令和2年5月、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う学生会員への緊急支援にも使われました。

なお、年会費を納入した会員には、香友会主催の講座・講習会（専門家講座など）の受講料割引や、代理部

「サムシング」の商品代金割引など様々な特典があります。

年会費納入者10年間の推移（左図）をみると、毎年卒業生が加わって会員数は増加しているにもかかわらず、会費納入者数は減少傾向にあります。

年会費「口座自動引き落とし」も、会員の皆様の利便性を図りながら、年会費納入をサポートするひとつの試みです。

今後も活発な香友会活動を支えるため、納入者増加の方策等を検討し、他部とも協同しながら、香友会の更なる発展に部員一同努めて参ります。

年度	納入者数(人)
平成23年度	1,996
24年度	2,152
25年度	2,249
26年度	2,091
27年度	2,073
28年度	1,954
29年度	1,797
30年度	1,623
31年度	1,664
令和2年度	1,518